



まえしろ てつ 議員 真栄城 哲

◆将来の西原を支える「子育て働き世代」の人口増を！

問 将来の西原町を支える礎となる、この世代が移り住みたくなる、環境づくりをするべきだと考えるが。

町長 この世代に重点を置く

◆幸地及び徳佐田地区区画整理事業

問 幸地及び徳佐田地区の区画整理事業は、モノレール浦西駅周辺事業と連動することにより、さらなる事業効果を発揮する。幸地IC周辺は、自動車道で那覇空港に直結することで、空港周辺の土地需要に即対応可能で、西原町の雇用や税収面で事業効果が大きい。切れ目のない事業展開が必要。今後の具体的な事業展開の工程表を示してほしい。

建設部長 当該事業に関しては、これまで組合設立に向け説明会等を行ってきた。さらに、調査業務が必要だが、厳しい財政事情などから工程表を示すことは困難な状況である。



きな まさもり 議員 喜納 昌盛

◆町政全般を質す

問 厳しい町財政運営の中で「本町の財政規模に見合った事業計画をこれまでよりも早い段階で見直す」と言っているが、いつ、どのように進めるのか。

総務部長 毎年度実施の実行計画のローリングに向けた集約、

と、保育園を中心に、教育施設の整備や福祉の整備等に相当なお金がかかる。全体的なバランスの中で進めていく、人口増加策が必要だと考えています。

問 若い人達にお金がかかり過ぎるのではなく、その世代は、金を生み出す。そういう収支の比較をすべきである。若い力は、まちづくりの面にも大きな力となるので、環境づくりをやっていたきたい。

◆「法定外税」の導入で、新たな財源確保を！

問 入湯税は、魅力だと思う。実施された調査でも、温泉が出るという事実はあるのだから、それを利用した企業の誘致も



よなみね よしお 議員 与那嶺 義雄

問

徳佐田の場合、お金がないから事業が凍結だという話になって、みんな諦め感がある。丁寧な説明が必要だ。浦添市側は活気を帯びてビルが建ち並び、西原町側は草ぼうぼうでは恥ずかしい。

都市整備課長 都市マスタープランの見直しの中で、向こう3年をかけて計画を策定したい。

その後の予算編成方法は新たな試みで実施に移す。法律に基づく義務的・事業・予算を先に確保、残りの財源で優先度の高い一般行政、政策事業を収支が合うよう計画を見直す。

副町長 3月議会終了後、4月から準備に着手、町長の政策に照らし合わせ、特にこの2か年については確定させていく。

問

国保赤字解消プランの見通しは。 福祉部長 平成35年までに累積赤字を解消しなければならぬ。見込みで14億円の法定外繰り入れが必要で単年度の保険税のあり方、赤字を出さない収支のバランスで財政構造にする必要がある。

あると思うが。

産業観光課主幹 井戸を掘るのに2億円かかり、そこを理解したうえで進出する企業があれば探していきたい。

問 お金がかかるからと決めつけず、誘致にあたり、税制優遇など方策があると思うし、収入源となるかもしれないので、今から計画してもらいたい。

◆これでいい？ 観光振興計画

問 今回策定された『観光振興計画』、抽象的でビジョンが見えない。他の自治体は、アンケート調査から弱点や数値目標を立てている。何世帯を対象にどれだけの回答があったのか。

◆抜本的な財政再建策の実施を

問 町民は町の将来に大きな不安を募らせている。県下でも財政力は上位にありながらも、財政危機に陥る。原因を早期に分析し、対応できなかった事が大きな問題だ。外部の専門家を入れた財政運営・チェック体制があるのか。また、南風原町や与那原町の

ような抜本的な「財政健全化計画」を断行することが、町財政の再生・安定に不可欠だと考えるがどうか。

町長 財政健全化計画の名称ではないが、町でも行革大綱や集中改革プラン等で同様な改革はしてきた。

総務部長 5次、6次の行革大綱は内部のみで検証を行ってきた。

福祉保険課長 平成36年度までに保険税の見直し、医療費の抑制で、単年度の赤字解消はできる。

問

各教育施設関連課題解決に向けた実施計画の作成は。 教育部長 所管施設の建て替えは多額の事業費が必要で現状では大変厳しい。中期的な計画及び具体的な実施時期を今後詰めていく。

問

海外移住者子弟研修生受入事業の進捗状況は。 教育部長 第28期生の推薦依頼を5月30日にペルーに送付。9月、10月の実施に向け取り組んでいる。

問

尚円王即位550年記念事業検討委員会での委員から

産業観光課主幹 1089事業者を対象とし、回答数は80件となっている。

問 他の自治体では、何パーセントの回答数があれば、信頼度は何パーセントあると示されているが、本町のアンケート調査は、どのくらいの信頼度か。

産業観光課主幹 信頼性という形では、大変低いと言わざるを得ない。ただ、2ヶ月間かけて、お願いしての回答率であるので、これ以上取ることができなかった。



た。

問 これまでのやり方で十分だとする答弁。将来本当に沈没するという危機感が町長にはないのか。

副町長 予算も前年比マイナス5.7%と引き締め、もっと切り込む必要があると認識している。

の意見等はどう対処していくか。

教育部長 「致和」扁額の制作、記念の講座やシンポジウム開催、即位550年の機を逸すべからぬ等々の意見があり、今後検討。

問

議会費の議会側との協議は。 総務部長 財政状況を説明し協議。議会でも議論を。